

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 崎山 治男

講義内容・テーマ

社会学的な物の見方とは、どのようなものか？「社会学的」という表現をしばしば耳にするが、その答えは定かではない。それは第1には、これまでの社会学の歴史の中でも様々な見解の対立があったことがある。また第2には、近年の学問的状况の中での社会学の研究対象の多様化にもよる。このような背景から、本講義は「社会学とは何か？」という基本的な問いに、社会学史の立場から取り組んでいくことをめざす。社会学の基本的な発想法や思考法を学びたい、幅広い専門分野をもつ学生・院生の受講を期待する。15回の講義のなかで「社会を社会学的に見る方法」について体系的な知識の獲得を目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上/人間福祉学科2回生以上基礎社会学,社会学理論,社会学史,社会学入門等の社会学関連科目を受講しておくことが望ましい。これらの科目を受講していない場合は有斐閣新書、『社会学のあゆみ』の通読を希望。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	70 %	
レポート	30 %	

試験に代わるレポートと、2回程度の中間課題で評価をする。

講義スケジュール

内 容	キーワード
イントロダクション:近代社会の登場と社会学	
社会実証主義と方法論的集合主義	
近代社会の病理と連帯	
方法論的個人主義と行為論的視座	
近代社会のエートスと宗教	
主意主義的行為論と目的論的機能主義	
社会の体系論的 - システム論的分析	
因果論的機能主義と中範囲の理論	
社会の意味論的分析	
社会学の分裂？パーソンズ・シュッツ論争	
人類学的まなざしと構造主義	
レイベリング論とリアリティのマイクロ社会学	
社会構築主義の功罪	
文化的再生産論とポスト構造主義	
構造 - 機能主義と全体の纏め	

テキスト

特に指定しない。毎回レジユメを配布する。

参考書

講義のなかで適宜紹介するが、さしあたり以下を参考書として指定する。
『現代社会学の理論と方法』(岩波講座・現代社会学別巻)『講座社会学1理論と方法』(東京大学出版会)、船津衛『アメリカ社会学の潮流』恒星社厚生閣

授業の方法(大学院科目のみ)

レジユメ・スライドによる講義形式とする。各回毎に簡単なレスポンス・カードを作成してもらう。

参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 伊藤 武夫

講義内容・テーマ

テーマ:現代社会の秩序意識をめぐって

この講義では、「モダニティー」とは何か、さらに現代社会の秩序形成の在り様について検討したい。そのあと、日本のように「伝統」と「モダン」と「ポスト・モダン」が奇妙に重なり合う現実を再確認し、論理的に整理される「モダニティー」とその後の未来社会について皆さんと議論してみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上

講義ではあるが、毎回ごとに受講生の意見を求める。活発に、率直に意見交換できる雰囲気を期待する。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	75 %	レポート提出が評価の必須要件
日常点 (小テスト)	25 %	コミュニケーション・ペーパーを4回配布

出席は毎回チェックする。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義 講義全体の流れを説明	
近代社会と伝統 モダニティーと再帰性	モダニティー
信頼をともなう環境, リスクをともなう環境	信頼, リスク
モダニティーの制度的特性(1) 産業主義と資本主義	産業主義, 資本主義
モダニティーの制度的特性(2) 監視と軍事力	官僚制, 暴力
近代社会のパラダイムとユートピア的現実主義	ユートピア的現実主義とポストモダン論
モダニティーと理想社会	脱希少性
ギデنزの「第三の道」(1)	
ギデنزの「第三の道」(2)	
再び資本主義社会について マルクスとヴェーバー	階級認識
現代の都市を考える(1) グローバル化と諸勢力	グローバル, ローカル
現代の都市を考える(2) 国際経済秩序とリスク	IMF体制と開発投資
グローバル化とリージョナルな諸組織	リージョナル
文化のグローバル化とローカリズム	文化帝国主義, 地域文化
競争的勤労福祉国家体制のゆくえ	競争的勤労福祉

テキスト

・テキストは検討中。しかし、すくなくとも次の2冊は議論のなかで取り上げたい。
アンソニー・ギデنز『近代とはいかなる時代か』、而立書房、1993年。
友枝敏雄著『モダンの終焉と秩序形成』、有斐閣、1998年。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
予言と進歩	クリチャン・クマー / 文真堂 /
20世紀の歴史 上・下	E・ボズボーム / 三省堂 /

・このほかは講義のなかで、適宜、紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

・日常的な世界を照らす映像、絵画などを用いて、皆さんの記憶や意識を刺激するようにします。
・各講義ごとに20分ほどの質問と討論の時間を設けるようにします。

参考になるWWWページ

・講義のなかで適宜、紹介する。

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 担当回生 時間割等参照
担当教員 佐藤 春吉

講義内容・テーマ

本講義では、社会文化論として、近代社会の文化の根本問題を深く考察したM.ヴェーバーの文化社会学の理論的把握に関連する方法論的検討を行いたい。はじめに、本学部人間文化学系テキスト『方法としての人間と文化』所収の拙稿「人間と文化を考える」を扱い、文化の理論把握のための基本概念をおさえておきたい。その後、M.ヴェーバーの文化科学の方法理解をめざして、「職業としての学問」「職業としての政治」（いずれも岩波文庫）『文化科学の論理学の領域における批判的研究』（『歴史は科学か』みすず書房所収）を取り上げ、その後、西欧文化の合理化と価値諸領域の分裂問題を深く考察している有名な「宗教社会学論集序言」「世界宗教の経済倫理序論」、「世界宗教の経済倫理、中間考察」（いずれも、『宗教社会学論選』みすず書房所収）を中心に、テキスト講読を行う。

M.ヴェーバーの文化科学は、行為の意味理解、価値と意味の概念を中心に展開される。それに関連して文化価値、価値領域、価値自由や価値分析（価値解釈）という概念、客観的可能性と因果帰属の方法を駆使しつつ、西欧合理化と文化価値領域（宗教と科学、政治、経済、美、性の諸価値領域）の分裂という問題を徹底的に追及し、西欧文化と東洋文化との比較の視点を研ぎすませている。また、M.ヴェーバーの文化研究は、人間が生み出す文化価値の相克についての深い洞察に満ちており、人間の社会倫理を考えるうえでも教えられるところが多い。これらのM.ヴェーバーの文化科学についての古典的研究を深く理解することは、社会学における現代文化研究にとっても、その土台となる基本問題を照らし出してくれる。また、文化科学の方法論についても、いまだに価値多く示唆に溢れている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

上記の諸文献については、できるだけ事前に一度は読んでおくこと。講義での講読では、その自分の理解を一つ一つ確かめ、深める過程と位置づけて欲しい。本講義では、おそらく自学自習段階における受講生の「理解の程度」を試めず（試される）、という緊張感をもって受講して欲しい。漫然とテキストも読まずに参加することは絶対お断りしたい。

また、できれば、学部発行の『産社ハンドブック』における拙稿「要約の仕方」を事前に読み読書の方法、要約の方法についても学ぶつもりで受講するならば、有益ではないかと思う。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	60 %	最終レポートを課す。
日常点（小テスト）	40 %	講義の講読にあたって、受講生にレジメ作成を課すので、その取り組み状況、受講状況を勘案する。

講義スケジュール

内容	キーワード
本講義の進め方、および、M.ヴェーバー概説	文化、文化科学
拙稿「人間と文化を考える」講読	人間、文化、意味、記号、解釈学
M.ヴェーバー「職業としての学問」1	科学、科学の価値前提、価値自由
同上2	
M.ヴェーバー「職業としての政治」1	文化科学、文化価値、価値解釈、価値分析、客観的可能性、因果帰属
同上2	
M.ヴェーバー「文化科学の論理学の領域における批判的研究」1	同上
同上2	
同上3	
M.ヴェーバー「宗教社会学論集序言」	西欧合理化、合理主義、エートス
M.ヴェーバー「世界宗教の経済倫理 序論」1	世界宗教、経済倫理、救済宗教、階級、神義論、禁欲、知性主義、非合理主義、etc.
同上2	
M.ヴェーバー「世界宗教の経済倫理、中巻考察」1	現世拒否、禁欲と神秘主義、カリスマ、預言、価値領域の分裂 etc.
同上2	
本講義の「まとめ」	

テキスト

佐藤春吉「人間と文化を考える」佐藤嘉一編『方法としての人間と文化』ミネルヴァ書房
佐藤春吉「要約の仕方」産業社会学部編『学部ハンドブック、産社で学ぶ』産業社会学部
M.ヴェーバー「職業としての学問」岩波文庫、同「職業としての政治」岩波文庫
同「文化科学の論理学の領域における批判的研究」、『歴史は科学か』みすず書房所収、同『宗教社会学論選』みすず書房

参考書

参考文献は、数多いが、山ノ内靖『マックス・ヴェーバー入門』岩波書店、モムゼン『マックス・ヴェーバー』未来社、シュルツター『現世支配の合理主義』未来社を挙げておく。なお、私の学部での「社会学史講義レジメ」のM.ヴェーバーの部分なども参考になると思う(最初の講義のM.ヴェーバー概説で配布する予定)。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 岡田 まり

講義内容・テーマ

社会福祉の援助や研究は、対象や領域、アプローチの違いを越えて共通する基盤のうえにたって行われることが望ましい。本科目では、そのような共通基盤を築くことを目指して、毎回、異なる社会福祉のキーワードを取り上げて議論する。テキストのほか、キーワードに関連する事象、事例、実践、論文等について受講生がもつ情報を共有し、幅広い領域に触れることで、各自の関心領域や研究テーマに広がりや深みを加える可能性を追求する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

毎回の講義・議論は、事前に指定する文献を熟読したことを前提として行うので、必ず予習が必要。その他にも課題があるので、授業の時間内外において積極的な取り組みを期待する。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点 (小テスト)	50 %	

講義スケジュールテキスト参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
新社会福祉援助の共通基盤 上下	(社)日本社会福祉士会編 / 中央法規 /

随時、紹介する

授業の方法(大学院科目のみ)

講義と議論

参考になるWWWページその他

社会福祉学研究 S
 応用社会学特論 S
 社会福祉学特論 H

30291

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 高橋 正人

講義内容・テーマ

社会福祉理解の基礎的視点の獲得と歴史社会的に規定された現代的課題の分析的把握を目的とする。とくに介護保険、社会福祉基礎構造改革後をも射程にいれた考察を行いたい。社会福祉の動向の中から浮かび上がる現代的課題を原論的枠組において整理しながら講じる。「社会福祉とは何か?」といった「問い」から社会福祉を考える基礎的視点を獲得し、社会福祉の現代的課題にみることのできるいくつかの新しい論点について考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上。「考える」ための「問い」を意識的につくること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	70 %	
日常点 (小テスト)	30 %	

*試験に代わるレポートとして実施 レポートと出席点による総合評価

講義スケジュール

内 容	キーワード
社会問題の生成と対象化	
社会福祉理論の成立と福祉ニーズ論	
福祉国家論の系譜と福祉社会論	
日本型福祉社会論	
社会福祉と財源問題	
社会福祉と資源還元問題	
社会福祉と供給の多元化	
社会福祉基礎構造改革(1)	
社会福祉基礎構造改革(2)	
介護保険制度(1)	
介護保険制度(2)	
社会福祉とコミュニティ	
社会福祉と家族	
社会福祉と社会サービス	
まとめ	

テキスト

とくに定めない

参考書

とくに定めない。講義の中で資料等を配布する

授業の方法(大学院科目のみ)

基礎講義を行うが、受講者のレポートを題材にした討論を取り入れる

参考になるWWWページ

その他

特殊講義 SA
 応用社会学特論 SA

30788

授業開講期間 後期集中 単位数 2 配当回生 1以上
 担当教員 HOANG THI NHO、CAO THI XUAN MY

講義内容・テーマ

ベトナムの障害児教育の現状と課題を中心に講義する。特に、障害発生の原因(ベトナム戦争との関係も含めて)、早期発見・早期介入、特別なニーズ(就学ニーズと親の要求を含む)、障害児教育の歴史と改革の現状、地域にねざす教育・福祉、ドイモイ政策と障害児教育、その他をトピックスとして講義を行う。日本の障害児教育および福祉との比較研究についてもふれる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講生に関わる情報

- (1)11月22日(火)から12月1日(木)、集中講義として実施する。
- (2)原則として通訳をいれて講義するが、一部、英語による講義も行われる予定である。
- (3)一部、VTRなど視聴覚教材を活用した授業が行われる。
- (4)授業中に資料を配布する
- (5)受講登録制限単位数に含まない。

評価方法・基準

成績の評価は、レポートによる。

講義スケジュール

内 容	キーワード
1.はじめに 国 a) ベトナムについて b) ベトナムの人々	a) ベトナムという
障害者・障害児	(2) ベトナムの歴史: - 戦争 -
	(3)ベトナムの障害児・者の現況
2. ベトナムの障害児家族のニーズ お願い (1)就学前の障害児の教育ニーズと親・家族 お願い (2)就学後の障害児の教育ニーズと親・家族	
3. 障害児のための教育及び社会福祉 障害児・家族の現状 (1)Cuu Long(キュー・ロン)川地域における (2)障害者・児を援助する社会政策 (3)ベトナムの障害児教育システム(過去と将来)	
4.ベトナムの障害児の早期発見・早期教育 (1)聴覚障害児 (2)視覚障害児 (3)知的障害児	
5. ベトナムの障害児の生活を改善するための特徴的な活動	

テキスト

書名 著者/出版社/ISBNコード
 「胎動するベトナムの教育・福祉」 (津止正敏他編/文理閣/

上記を副読本として使用する。事前に読んで基礎知識を得ておいてほしい。

参考書

書名 著者/出版社/ISBNコード
 『胎動するベトナムの教育と福祉 - ドイモイ政策下の障害者と家族の実態 -』 (1) 津止正敏・黒田学・向井啓二・藤本文朗編/文理閣/
 『ベトナムの障害児教育・福祉の動向』『総合社会福祉研究』 18号, 134-148 荒木穂積・黒田学・森澤允清 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 嘉納 新

講義内容・テーマ

日本の新聞をより多角的に分析・理解し、受け手(読者)の立場から必要な改善・改革を提起していくための手がかりとして、形態だけでなく文化的背景の異なる英字紙と比較しながら紙面企画、記事内容、体裁、レイアウト、写真・イラストなどビジュアル・インフォメーション、コラム、社説・評論、投稿、広告、販売方法など幅広く点検していく。また日本で発行されている全国紙や英字紙、米国から届いた有力紙のバックナンバーから随時タイムリーな課題テーマを選び出し、意見発表やディスカッションも重視する。講義の流れの中で日本の新聞だけでなく、英字紙に少しでもなじんでいくことを通じて、複眼的な思考に役立てるねらい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上/人間福祉学科2回生以上
 英字紙嫌いとか、硬い英文記事が苦手という人をむしろ歓迎します。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点(小テスト)	50 %	

*試験に代わるレポートとして実施 *日常点評価 課題レポートと、平生の受講態度や発表内容を半々で評価します。なお、講義後半での発表内容は水準に達しているものについて、課題レポートの提出を免除することがある。

講義スケジュール

内容	キーワード
始めに 日本における英字紙の歩みなど	
実物で見る日米の新聞の違い	
経営、編集方針、記者教育など「日米差」の背景	
テーマ別分析 記事一般	
テーマ別分析 社説・コラム	
テーマ別分析 読者投稿・レター	
テーマ別分析 死亡記事、その他	
テーマ別分析 スポーツ面、その他	
受講者への米紙バックナンバー配布と説明	
テーマ別分析 広告・販売など	
テーマ別分析 ビジュアルインフォメーション	
受講生からの発表・意見交換と講師の解説	
テーマ別分析	
テーマ別分析	
終わりに 日本の新聞改革への提言	

テキスト

当日の「ヘラルドトリビューン朝日」(1部150円)をできれば入手して授業にのぞむこと。主要駅のキオスクで販売していますが、入手難の人のために必要箇所のコピーは用意します。

参考書

参考紙面としてニューヨーク・タイムズ紙とワシントン・ポスト紙を活用。随時講師がコピー提供する。6月以降、やや古いバックナンバー多数を講師が用意し、希望者全員に1~2部ずつ参考資料として提供。

授業の方法(大学院科目のみ)

4月と5月は講師の話が中心。毎回、当日や直近のヘラルド朝日から注目記事なども紹介する。6月後半以降は、米紙ニューヨーク・タイムズとワシントン・ポストのバックナンバーを全員に配布した上で、希望するテーマ(例えば政治、福祉、スポーツ、アート、投稿、紙面スタイルなど)について受講者が検討結果を簡潔に発表した後に、全員で意見交換をし、講師が解説する形で進める。

参考になるWWWページ

<http://slate.msn.com/>

特殊講義 SC
 応用社会学特論 SC

30281

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 飯田 哲也

講義内容・テーマ

テーマ:現代日本社会論の試み

講義内容:社会学の立場から「現代日本社会論」の構築を試みるのがこの講義の基本的な性格である。現代日本社会論は専門が異なる多数の執筆者によるもの、経済学、政治学、社会学などの個別社会分野についてのものがある。社会学からの場合、「社会学者」によるという性格が支配的ななか「社会学」による性格として追及するというのが私の講義の狙いであるが、具体的には「講義スケジュール」を見ればうなずけるであろう。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特になし

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	80 %	学んだことと自分の考え方
その他	20 %	講義の理解度と自分の所見

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
現代日本社会論の課題と方法	科学的方法
予備的考察としての近代日本社会の成立と性格	構造化と全体化
近代から現代日本社会への構造転換	敗戦の意味
現代日本社会論について	社会論
戦後復興期 1)物質的条件	戦後改革
戦後復興期 2)意識的条件	民主主義
高度経済成長期 1)物質的条件	全国総合開発計画
高度経済成長期 2)意識的条件	位層
ポスト成長期 1)物質的条件	問題状況
ポスト成長期 2)意識的条件	「転換期」認識
直面している社会的現実	文化状況
日本社会の現在と未来 1)未来への思考	岐路に立つ現在
日本社会の現在と未来 2)地方分権の主張	地方分権
日本社会の現在と未来 3)民主的人間像	主体性と協同性

テキスト

テキストはなくレジュメを配布

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期集中 単位数 2 配当回生 1以上
 担当教員 PETER ABRAHAMSON

講義内容・テーマ

The aim of the course is to provide the students with a comprehensive understanding of contemporary welfare states. The development of the welfare state is generally regarded as being a post Second World War phenomenon and the single most important institutional change for citizens in modern society. The welfare state is a state form which guarantees its citizens basic social rights and, hence, provides them with basic security. The course discusses welfare state developments and central issues from a comparative perspective. The course starts out by discussing the central issues raised in Great Britain during the Second World War where the concept of the welfare state first appeared. Then the origins of the welfare state are introduced through an historical overview of the development in Europe followed by discussions of some of the most important and dominant theses concerning welfare state development: the modernization thesis, the decommodification thesis and the power resource thesis. The fact that modern welfare states have developed into distinctly different models of welfare provision is discussed including the question of how to situate Japan in this modelling business. Special issues such as universalism versus selectivism, contradictory developments and the role of women and gender are then introduced. The latter part of the course concentrates on the most recent developments and current challenges to the welfare state. Finally,

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

At the end of the course, Friday October 28th 2005, Students must turn in an essay of five pages (of 2400 units per page) in English on a subject within the course framework of their own choice. The subject title must be approved by professor Peter Abrahamson in advance. The essay will be marked by professor Abrahamson according to the scale used by Ritsumeikan University.

講義スケジュール

内 容

キーワード

1. Introduction. The Welfare State: the Bishop of Canterbury and the Second World War
2. Welfare Pluralism, Welfare Mixes and the Mixed Economy of Welfare
3. Three Worlds of Welfare Capitalism or Four?
4. The Welfare Modelling Business
5. The Legacy of Richard M. Titmuss
6. Understanding Welfare in an Historical Context
7. L'etat Providence: A Francophone Approach
8. Germanic Understandings of the Social State
9. Europeanisation of Welfare
10. Understanding Welfare with Respect to Gender: A Feminist Approach
11. Globalisation of Welfare
12. Welfare and Risky Business
13. Postfordism and Welfare
14. Postmodernism and Welfare
15. Concluding the Course: the Japanese Welfare State in Comparative Perspective

テキスト

Articles will be available in photo copy format.

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

国際事情研究 S
国際事情研究 S

30260

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 東 自由里

講義内容・テーマ

Kokusai Jijo I: Social Change and Development

Why is it that some nations are poor, and others are rich? Are the rich nations getting richer, while others are getting poorer? There are major schools of thought that try to explain the differences between the rich and poor nation states: The Modernization Theories, Dependency Theories, the World System Theory, and Postcolonialism. These theories also attempt to explain how the political, social, historical, and cultural systems influence the economic conditions of the rich and poor nations. In the end of the course, students are expected to present their own case studies and apply one of the theories introduced in class from a critical point of view.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

This course is conducted entirely in English. This course is open for both advanced undergraduate and graduate level students, international and Japanese students. Your participation is "a must" to make this course successful. Please come to class well prepared with your reading assignment completed beforehand.

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	40 %	Participation
その他	60 %	2 Quizzes (10% x2 = 20%), Final Exam (20%), Presentation (20%)

講義スケジュール

内容	キーワード
Introduction to the course	
The Modernization School Perspective	
The Historical Context	Theoretical Assumptions
Classical Modernization Case Studies	
Criticism of Modernization Studies	
The Dependency Perspective/The Historical Context and Theoretical Assumptions	Quiz #1 (10%)
Classical Dependency Case Studies: Core and Periphery	
Implications of the Dependency School/ Comparison with Modernization School	
World System Perspective	Quiz #2 (10%)
Comparison of World System Perspective and Dependency Perspective	
Postcolonialism	
Presentation	
Presentation	20% of total grade
Review	
Final Exam	20% of total grade

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Social Change and Development (paperback)	Alvin Y. So / Sage Library of Social Research / 0-8039-3547-1

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
ポストコロニアリズム	本橋哲也 / 岩波新書 / 4-00-430928
近代世界システム-農業資本主義	I. ウォーラースティン / 岩波現代選書 /

授業の方法(大学院科目のみ)

A combination of lectures, discussions, and presentations

参考になるWWWページ

その他

国際事情研究 S
国際事情研究 S

30792

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 東 自由里

講義内容・テーマ

Kokusai Jijo II
Comparative Historicism: Memories of World War II in Japan, Germany, China, and the United States

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

This course is conducted entirely in English. Students are expected to have good reading skills and actively participate in discussions. The course is open to both graduate and advanced undergraduate students: Japanese students, returnee students, DUDP, UBC program participants, and international students are all welcome. In addition to required readings, some actual history textbooks that are/were used in Japan and the United States will be introduced in class.

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	30 %	weekly performance and participation
その他	70 %	Short Quiz (10%) and Final Exam (20 %), Presentation (20%), final paper (20%)

Quiz (10%), Final Exam (20%), presentation (20%), weekly Performance (30%), and final paper (20%)

講義スケジュール

内容	キーワード
Introduction to Course	
Social Power and Global Change	
Consuming Asia	
History Textbooks an the Ienaga Trials in Japan	
Japan- Korea Joint History Textbook Projects	
The Vietnam War in American High School Textbooks	
War Crimes and the Vietnamese People	Quiz #1 10% of total grade
The Enola Gay and Zero Fighter Museum Exhibition	
The Chinese Historiography of the Nanjing Massacre	
Identity and Transnationalization in German School Textbooks	
Selective History in Germany: The Holocaust Education for Youth in the New Germany	
Individual Presentation	
Individual Presentation	
Citizenship and Memory: Review	Paper Deadline
Final Exam	20 % of total grade

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Censoring History: Citizenship and Memory in Japan, Germany, and the United States	Laura Hein and Mark Selden, eds. / M.E. Sharpe / 0-7656-0447-7

Please purchase your textbook on your own.

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
History Wars: The Enola Gay and Other Battles for the American Past	Edward T. Linenthal and Tom Engelhardt / New York: Henry Holt and Company / 0-8050-4387-X
The Nanjing Massacre in History and Historiography	Joshua A. Fogel / University of California Press / 0-520-22007-2
『戦争を記憶する：広島・ホロコーストと現在』[Senso o kioku suru]	藤原帰一 [Fujiwara, Kiichi] / 講談社 / 4061495402

授業の方法(大学院科目のみ)

Please do the reading assignments before attending class. Your active participation is highly encouraged to make this class truly a learning experience. In the end, we are going to put a booklet together, "Sites of Memory," together for yours to keep.

参考になるWWWページ

その他

アカデミックライティング S
 アカデミックライティング S
 アカデミック・ライティング S

30256

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 IAN T. HOSACK

講義内容・テーマ

This course will help students develop their academic writing and research skills. It will introduce students to the process of writing an academic paper: how to make a start with pre-writing exercises; how to paraphrase and summarize information from secondary sources; how to outline, draft and revise a paper.

Students will develop their formal writing skills through 3 projects: a Summary Report, a Cause-Effect Essay and an Academic Argument Essay. The culmination of the course will be a mini-conference in which students will have the chance to present and discuss their papers.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上

This is a demanding course with homework assignments every week. Students are expected to be highly motivated. Regular attendance is essential.

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	75 %	3 major writing assignments: 1) Summary Report 2) Cause-Effect Essay 3) Academic Argument Essay
日常点 (小テスト)	25 %	Attendance and participation

講義スケジュール

内容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

Orientation : The Academic Writing Process

Expressing main ideas: basic paragraph structure

The summarizing process; Note-taking and organising ideas

The Summary Report

Creating a list of references

The Cause-Effect Research Paper

Writing the introduction / thesis statement

Using information from printed sources; Academic Honesty

Making an outline; Writing with transitions

Writing the conclusion

Preparing for an Academic Argument Paper

Writing accurate generalizations; Using modal auxiliaries

Writing definitions

'Mini-conference' - student presentations & discussion

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Foundations of Writing: Developing Research & Academic Writing Skills	Carolyn Spencer & Beverly Arbon / National Textbook Company / 0-8442-9354-7

参考書授業の方法(大学院科目のみ)

Presentation of main points by instructor; class discussion; group work; pair work

参考になるWWWページその他

アカデミックP & D S
アカデミックP & D S

30805

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 IAN T. HOSACK

講義内容・テーマ

Focusing on the format of formal debate, this course will develop students' ability to present their ideas to an English-speaking audience both clearly and persuasively. Preparation for in-class debates will require careful research and close collaboration between students.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	25 %	Final test in the last class
日常点 (小テスト)	75 %	Attendance, regular homework assignments, participation in class debates

Regular attendance is absolutely essential.

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

Introduction : What is Debate? How to clarify the resolution

How to make a convincing point; How to flow arguments

The First Affirmative Constructive speech (1AC)

The First Negative Constructive speech (1NC). How to refute a point

Challenging supporting ideas

Review & application: short debates

How to use holistic reasoning

Members' Speeches : the 2AC & 2NC; Rebuttal Speeches

Full Debate #1

Full Debate #2

Full Debate #3

Full Debate #4

Full Debate #5

Final written examination

テキスト

No textbook. All materials for this course will be provided by the instructor.

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Discover Debate	Michael Lubetsky, Charles LeBeau & David Harrington / Language Solutions Inc / 1-929274-42-4

授業の方法(大学院科目のみ)

Presentations by the instructor; group work and pair work. Preparation for full debates will require careful research and close collaboration between students.

参考になるWWWページその他

It is hoped that some students will be interested in participating in the Ritsumeikan debate tournament. This class will help students prepare for that contest.